

第32期第11回常任理事会議事録

日時：2003年6月16日（月）13時30分～17時00分

会場：日本気象学会事務局（8階）

出席者：廣田，古川，勝山，神沢，木田，田中，新野，
藤部，萬納寺，以上9人

その他の出席者：館，島村（事務局）

議題：

1. 第32期第10回常任理事会議事録の確認

2. 第32期第4回理事会議事録の確認

3. 2003年度総会議事録の確認

4. 各委員会等の報告

庶務…転載許可

学会機関誌「気象集誌」「天気」「大会講演予稿集」に掲載されている下記の図を古今書院刊行の「地球温暖化と日本（仮称）」への転載

1) 気象集誌67巻 p908第1図，78巻 p106第5図c，p113第13図e，80巻 p624第1図，p634第9図。

2) 天気47巻 p710第1図

3) 1999年秋季大会講演予稿集 p39 (A156) 第1図

・後援名義等使用依頼受付

名称：第17回数値流体シンポジウム

1) 主催：財団法人日本流体力学学会

2) 期日：平成15年12月17日（水）～19日（金）

3) 場所：国立オリンピック記念青少年センター

4) 名義：協賛

・法人（気象学会）の実地検査について（通知）

文部科学省による法人の検査が6月30日に行われる。

・2003年度総会参加票の結果

有権者数3685，投票総数2028票，うち有効票2021票。

・2003年度春季大会の総括

大会参加者数は890名。うち土曜だけの大会参加者は81名で多かったと言えよう。つくばが東京から遠いせい，学校教育関係者が意外と少なかった。土曜の予報士分科会が盛況だった。

4日間の開催に対しては，時間・ポスター会場に余裕があった，4日は長い，などの参加

者の感想があった。また，ポスター紹介の30秒は不要ではないかとの意見もある。

来年の春季大会も4日で実施する計画である。

・平成14年度確定申告書提出

・IUGG2003総会に対しての寄付状況（6月12日現在）

1) 通常会員：58名，計1,087,000円

2) 賛助会員：沖縄電力（株）（2口），トーテックス（株）（3口），（株）カイジョー（5口），横河電子機器（株）（3口），（株）I・H・I・エアロスペース（10口），計230,000円

会計…2002年5月分の収支報告

天気…Vol. 50 No. 6（2003年6月号）の掲載記事とVol. 50 No. 7（2003年7月号）掲載予定記事の報告。細則，規定の改訂を8月号に掲載する。

気象集誌…2002年度の会計報告。マイナス12万円の繰り越しがあり，2002年度は赤字が更に10万円増えた。日本語の要旨を天気に掲載するなどの仕事が増えたことによる編集経費（謝金）の増額，交通費の増額が赤字の主要な要因と報告された。編集にかかわる仕事の内容と時間を事務局に報告し，赤字を補填することとする。

気象研究ノート…ノート203号（ニューラルネット）はまだ一般書店に出ていない。

総合計画…レター誌委員会を大会期間中に開催し，レター誌を発行するという方向で踏み出した。

教育と普及…地球惑星科学関連学会合同大会・特別公開セッションで，「地学教育の昨日今日明日—地球惑星科学は理科・地学離れを救えるか—」が5月26日開催され，坪田会員，木村会員が話題提供した。

・合同大会運営機構の下部組織として，新たに「地学教育委員会」を設置することが決まった。本委員会への気象学会からの委員派遣を要請されている。

電子情報…2003年5月1～31日の気象学会ホーム

ページのアクセス状況(86,628件)。春季大会公式ページへのアクセスが増えたばかりではなく、そのほかのページへのアクセスも増加した。

- トップページで総会参加の呼びかけがなされた。
- 5月のメイリングリスト配信記録(2件)
- 気象庁データ配信のための学術機関向けの専用のインターネット回線を新設した。数値予報GPV利用機間が39機間、全国合成レーダおよびウィンドプロファイラデータの利用機間が14機間で、当初の想定利用者数(25-30)を超え、データ配信に支障をきたす懸念がでてきたため、負担金は今年度も同額の予定。
- 気象学会メイリングリストに加入する方法が、現在2通り(入会申し込み用紙に書きこむ、気象学会ホームページから登録)あるのをホームページからの登録に一本化することを検討している。

地球環境…来年の春季大会で他学会から研究者を招いてシンポジウムを開くことを計画している。

その他…学術会議の19期会員選挙が行われた。地球物理関連の学術会議会員は電磁気学会などの推す西田篤弘氏、地震学会などの推す石田瑞穂氏に決まった。19期は気象研連がなくなり、大気水圏科学研連の気象専門委員会となる。大気水圏科学研連にはほかに陸水専門委員会、海洋専門委員会が設置される。19期間に学術会議の見直しを進める。

5. 会員の新規加入等について

新入会員26名を承認、退会3名。6月13日現在、会員数4,418名(内、通常会員3,945名)。

6. 山本・正野論文賞候補者の推薦

推薦委員会からの推薦があった。推薦文の修正の後、全理事の投票とする。

7. 堀内賞候補者の推薦

推薦委員会からの推薦があった。全理事の投票とする。

8. 奨励賞候補者の推薦

推薦委員会からの推薦があった。全理事の投票とする。候補者選考委員会では次のような議論があった。気象庁の業務を反映して、受賞候補者がメソ気象に偏っている。奨励賞委員会として問題意識を持

つべきではないか。教育関係の受賞対象は学校関係者に限らなくても良いのではないか。しかし対象を広げるにはその範囲を明確にするべきだ。

9. 学会運営に関する諸問題について

(1) 地球物理関連学会長等懇談会

日本の地球物理関連学会を統合したいとの意見は前からあり、研究発表のための合同学術集会を「合同学会連絡会」で運営・開催している。これとは別に、公の組織として意思の表明をできる母体として「懇談会」よりも一歩進んだ団体を設立したい、との意見がある。最近では学術会議の改革案に対する意見を表明する時にこのような性格の団体の必要性があった。気象学会はこの考え方に賛同する。この団体は学会の代表者が集まった「協議会」という性格で、気象学会は常任理事会の意見をこの団体に反映できる。

(2) 気象学会の会員制度

総会成立に会員の半数の参加が必要であるが、年々参加票の集まりが悪くなってきている。このため、気象学会の会員制度について総合計画委員会でも検討し、年末までに方針をまとめることとする。ただし、現在法人制度の見なおしが行われており、総会成立条件も変わるかもしれないことも考慮する。

(3) 会計

大会などの学会活動に対して、独立行政法人の研究施設および大学からこんな名目でこれだけの費用が出せる、という具体的な例を出して頂きたい。

(4) 総会会場への参加者

今年の春季大会の総会の会場にいたのはわずか90人弱だった。会員の意識が低下しているのではないかと、参加票で成立条件を満たしているのでは出なくていいと考えている会員が多いのではないかと、などの理由が考えられる。来年の春に向けて総会のありかたの検討も必要かもしれない。

10. 地学教育委員会委員の推薦について

合同学会連絡会で委員の推薦を依頼された。教育と普及委員会委員の畠山会員を推薦することとする。

11. 気象研究ノートの韓国語訳

韓国気象学会から、大学で教材に使うため、気象研究ノート第197号(2000)「台風一解析と予報一」を韓国語に訳したいとの依頼があったので、これを了承した。

12. 第32期各委員会の構成(後期)について

主担当理事は各委員会の委員を確認して事務局に知らせる。

13. その他

- (1) IUGG2003の準備は順調。登録者4221人で、赤字は避けられそうな見とおし。IAMASは823人で登録者数の5分の一を占め、一番多い。二番目はIAGA

で767人登録。企業からの寄付が予想より少ない。

- (2) 電子ジャーナル版「天気」の記事を直接リンクしたいという希望があった。直接リンクしても良いが、「天気」の一部だということがわかるようにすることとしてもらう。



教官（広島大学総合科学部）公募

公募人員：教授または助教授を1名

所 属：自然環境科学講座

公募分野：大気科学

地域・都市から地球スケールまでの大気変動や気候変動の現象を数値解析によるシミュレーションの手法を用いて明らかにする研究分野の専門家であり、領域モデルや全球モデルによる気候シミュレーションに精通している方で観測にも興味のある方が望ましい。また、従来学んできた研究領域を越えて積極的に自然科学や人文社会科学を越えた学際的研究・教育にとりくみ、自ら学際研究プロジェクトを立ち上げるような意欲のある方を求めています。

担当授業科目：教養的教育科目（大気科学に関する教養科目、パッケージ別科目、情報活用概論）、専門的教育科目（環境共生プログラムの教育科目：（気象科学、自然環境実験、基礎野外実習、自然環境野外実習）、大学院担当授業科目（着任後、決定）。

着任時期：平成16年4月1日

応募資格：博士の学位を有している方。

提出書類：(1) 履歴書（氏名は本人自筆、写真貼付）、(2) 研究業績リスト、(3) 主要な論文、著書、報告書の別刷り又はコピーを10編程度、(4) 現在までの研究概要及び今後の研究計画と抱負（3000字以内）、(5) 所属学会及び学会活動、(6) 現在までの外部資金（プロジェクト）導入実績

と内容の概要、(7) 推薦書（2通）もしくは本人について問合せのできる方2名の名前・住所・電話番号 [注 (2), (4), (5), (6) についてはテキスト形式およびWORD形式のファイルを入れたCDまたはフロッピーディスクを添付すること]

応募書類の提出先：

〒739-8521 東広島市鏡山一丁目7番1号

広島大学総合科学部長 堀越孝雄宛

公募締切：平成15年9月26日（金） 必着

問合せ先：

〒739-8521 東広島市鏡山一丁目7番1号

広島大学総合科学部自然環境科学講座

教授 開発一郎

Tel：0824-24-6497, Fax：0824-24-0758

e-mail：kaihotu@hiroshima-u.ac.jp

広島大学ホームページ

[<http://www.hiroshima-u.ac.jp/>]

その他：応募書類は封筒の表に「自然環境科学講座（大気科学）教官応募書類在中」と朱書し、簡易書留で郵送のこと。

本学部には大学院生物圏科学研究科（博士課程前期・後期）が設置されています。また、現在、総合科学関係の新しい研究科が構想されています。尚、本選考に当たって面接を行うことがあります。それにかかる費用は各自でご負担いただきます。